一般選抜（前期日程）　国際学部　総合問題

２０２５年度広島市立大学
解答（出題の意図又は解答例）

第１問

＜出題の意図＞

問題の出典は，【課題文Ａ】は藤田早苗（英国エセックス大学人権センターフェロー）へのインタビュー記事（朝日新聞デジタル，2024 年 1 月 7 日），【課題文Ｂ】は筒井清輝『人権と国家』（岩波新書，2022 年）からの抜粋である。いずれも日本にとって普遍的人権の理念が重要であることを説いている。

第 1 問は，国際社会や地域社会が抱える課題に関心を持ち，かつその解決に意欲を持っているかどうかについて，受験者の「関心・意欲」を問うている。各問いでは，受験者が社会の問題をテーマとした課題文の内容を文脈とともに正確に読み取ることができているか（問１，問２，問３，問４），また，二つの課題文から共通点を見出しながら自分の考えを論理的に組み立て，根拠に基づいて解答することができているかについて，「思考力・判断力・表現力」を問う（問５）。

＜解答又は解答例＞

問１（20 点）

③（相手のために耳の痛いことでも忠告してくれる友人）

問２（50 点）

日本の人権教育は優しさと思いやりを養うというアプローチを特徴とするが，思いやりは自分の仲間や助けたいと思う人に向かうため，誰にでも普遍的な人権があるという視点が欠落してしまうという問題点がある。（97 字）

問３（20 点）

③（日本における性的少数者や在住外国人への差別が，他国から批判を受けている問題）

問４（30 点）

人権関連の報道に目を向け，遠い国での問題にも関心を払い，自分にも関わる問題であるという意識を持つこと

問５（80 点）：解答例省略

第２問

＜解答又は解答例＞

問１（30点）

ゾウはお互いを認識するのに，特定の音声ラベルを用いていること。

問２（20点）

with a success rate far better than chance

問３（30点）

問題点１

ゾウの鳴き声のどの部分が個体を名づけるものになっているのか判別できない。

問題点２

複数のゾウがある個体に対して同一の名前をつかっているのか定かではない。

問４（40点）

構成員がしばしば互いの姿を見失うような複雑な社会であれば，識別して他の構成員の注意を引き付けること。

問５（80点）

For me, communicating in English is difficult as I am still learning. In my native language, I can speak quickly and confidently. However, when I speak English, I feel nervous instead of confident. I worry that I will not have adequate vocabulary to express myself. It is hard for me to relax and enjoy English conversations. Feeling nervous is a challenge.

Listening to English is also a big challenge. In today's world, many English speakers have different accents and ways of speaking. Recently, I spoke English with some tourists from France who were visiting Japan. Their pronunciation was unlike the American English that I listened to in school. I think I need to practice listening to English spoken by people from all around the world.